

## 2012年度 決算概要

## 1. 連結決算概要（経営成績）

単位：億円（単位未満切捨て）

区 分	2011年度	2012年度	対前年増加額・率	
	A	B	B-A	(%)
<b>営業収益</b>	8,398	8,404	6	0.0%
高速道路事業	7,816	7,807	△9	△0.1%
(料金収入等) ※1	5,629	6,503	873	15.5%
(道路資産完成高)	2,187	1,304	△883	△40.3%
関連事業	619	641	22	3.5%
(道路休憩所事業)	435	455	19	4.4%
(受託・その他の事業)	183	186	2	1.4%
セグメント間取引の消去	△37	△43	△6	-
<b>営業費用</b>	8,350	8,327	△22	△0.2%
高速道路事業	7,816	7,770	△46	△0.5%
(道路資産賃借料)	3,816	4,489	673	17.6%
(その他の営業費用) ※2	4,000	3,281	△719	△17.9%
関連事業	571	601	29	5.1%
(道路休憩所事業)	386	413	27	7.0%
(受託・その他の事業)	185	187	2	1.1%
セグメント間取引の消去	△38	△44	△5	-
<b>営業利益</b>	48	76	28	60.0%
<b>経常利益</b>	71	108	36	51.5%
<b>当期純利益</b>	45	82	37	83.2%

※1 2011年度の営業収益/高速道路事業/料金収入等には、高速道路料金無料化社会実験及び東北地方無料措置の減収補てんが含まれています。

※2 営業費用/高速道路事業/その他の営業費用には、道路資産完成原価が含まれています。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	道路休憩所事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

## 2. 連結営業概況

### (1) 高速道路事業の営業状況

- 高速道路事業の営業収益は、前年度比9億円減の7,807億円となりました。  
前年度は、無料化社会実験や休日特別割引(地方部上限1000円)が6月19日まで実施され、6月20日からは東日本大震災の被災者等を対象とした支援のための無料措置が行われましたが、当年度は原発避難者を対象にした支援措置以外は終了したことや復興需要を伴った景気回復などにより、料金収入が前年度比1,141億円増の6,421億円となりました。

また、当年度は常磐道(南相馬IC～相馬IC)の新規開通などがありましたが、年度全体としては前年度に比べて新規開通が少なかったため、道路資産完成高については、前年度比883億円減の1,304億円となりました。

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区分	2011年度 ①	2012年度 ②	増△減額 ②-①
高速道路事業営業収益(連結)	7,816	7,807	△9
料金収入等	5,629	6,503	873
(うち料金収入のみ)	(5,280)	(6,421)	(1,141)
道路資産完成高	2,187	1,304	△883

- 高速道路事業の営業費用は、前年度比46億円減の7,770億円となりました。  
営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」と言います。)に対する道路資産賃借料が、料金収入の増加に伴う変動貸付料<sup>※</sup>の増などにより、前年度比673億円増となる4,489億円となりました。

また、その他の営業費用は、料金収入の増加に伴うETCマイレージサービス費用の増などがあつたものの、道路資産完成高に見合う道路資産完成原価の減により、前年度比719億円減の3,281億円となりました。

単位:億円〔単位未満切捨て〕

区分	2011年度 ①	2012年度 ②	増△減額 ②-①
高速道路事業営業費用(連結)	7,816	7,770	△46
道路資産賃借料	3,816	4,489	673
その他の営業費用	4,000	3,281	△719

※高速道路機構と当社で締結している協定においては、毎年度の実績料金収入が計画料金収入に対して、±1%を超える変動があつた場合は、超過分について道路資産賃借料が加算又は減算される仕組みとなっており、この超過分を変動貸付料と言います。

- 以上のことから、当年度における高速道路事業の営業利益は、36億円となりました。

## (2) 道路休憩所事業の営業状況

- 道路休憩所事業の営業収益は、東北地方無料措置の縮小などにより交通量が減少し、これに伴う休憩施設店舗の売上高減により、営業料収入が減少した一方で、直営の休憩施設店舗の増加及び自動販売機事業の直営化などにより売上高が増加し、前年度比19億円増の455億円となりました。
- 道路休憩所事業の営業費用は、直営の休憩施設店舗の増加及び自動販売機事業の直営化に伴い、仕入原価が増加したことなどにより、前年度比27億円増の413億円となりました。
- 以上のことから、当年度における道路休憩所事業の営業利益は、41億円となりました。

## 【参考】財政状態の概要(資産・負債の構造)

### ■連結貸借対照表(2013年3月末現在)

- 2012年度末の総資産8,147億円のうち、工事完成後に高速道路機構へ帰属する仕掛道路資産が3,844億円を占めています。また、負債については、道路建設のための社債・長期借入金3,745億円が仕掛道路資産に対応しており、仕掛道路資産の帰属と同時に社債・長期借入金も高速道路機構へ引渡しします。

【資産】	8,147億円	【負債・純資産】	8,147億円
仕掛道路資産	3,844	流動負債	1,706
流動資産	5,557	道路建設関係社債	3,395
固定資産	2,586	道路建設関係長期借入金	350
繰延資産	4	固定負債	4,718
		純資産	1,722

## 【参考】個別決算概要(経営成績)

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	2011年度	2012年度	対前年増加額・率	
	A	B	B-A	(%)
<b>営業収益</b>	8,046	<b>8,032</b>	△ 14	△0.1%
<b>高速道路事業</b>	7,759	<b>7,746</b>	△ 13	△0.1%
(料金収入等) ※	5,571	<b>6,441</b>	870	15.6%
(道路資産完成高)	2,187	<b>1,304</b>	△ 883	△40.3%
<b>関連事業</b>	287	<b>286</b>	△ 1	△0.4%
(道路休憩所事業)	104	<b>100</b>	△ 3	△3.8%
(受託・その他の事業)	183	<b>186</b>	2	1.4%
<b>営業費用</b>	8,043	<b>8,018</b>	△ 25	△0.3%
<b>高速道路事業</b>	7,778	<b>7,746</b>	△ 32	△0.4%
(道路資産賃借料)	3,816	<b>4,489</b>	673	17.6%
(道路資産完成原価)	2,187	<b>1,304</b>	△ 883	△40.3%
(その他の営業費用)	1,775	<b>1,953</b>	178	10.0%
<b>関連事業</b>	265	<b>272</b>	6	2.6%
(道路休憩所事業)	79	<b>84</b>	4	6.0%
(受託・その他の事業)	185	<b>187</b>	2	1.1%
<b>営業利益</b>	2	<b>13</b>	10	378.9%
<b>経常利益</b>	49	<b>51</b>	1	3.8%
<b>当期純利益</b>	30	<b>33</b>	2	9.2%

※ 2011年度の営業収益/高速道路事業/料金収入等には、高速道路料金無料化社会実験及び東北地方無料措置の減収補てんが含まれています。

## トピックス(2012年度の主な取り組み)

【参考資料】

### 【高速道路事業】実施した主な施策

#### ■新規開通(ネットワークの整備)

道央道(大沼公園IC～森IC)など、2区間 24.1kmが新たに開通しました。



道央道 大沼公園IC～森IC間 開通式



道央道 大沼公園IC～森IC間

2012年度新規開通区間

開通日	開通区間	延長
2012年4月8日	常磐自動車道 南相馬～相馬	14.4 km
2012年11月10日	道央自動車道 大沼公園～森	9.7 km
合計		24.1 km

#### ■災害復旧(東日本大震災の本復旧工事)

2011年9月より、東日本大震災により発生した高速道路の段差やうねり、路面下に生じた損傷などの復旧工事に取り組み、2012年12月22日をもって完了しました。



常磐道(上) 水戸IC～那珂IC間



仙台東部道路 仙台東IC～仙台港北IC間

#### ■トンネル内の道路附属物等の一斉点検

笹子トンネル事故を受けた国土交通省からの指示に基づき、トンネル天井板の緊急点検及びジェットファンなどのトンネル内重量構造物の一斉点検を実施し、お客さまの走行に支障となる損傷がないことを確認しました。

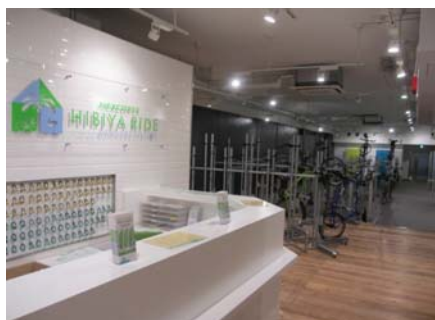
点検の様子(八戸道 折爪トンネル④)



### 【関連事業】実施した主な施策

#### ■「HIBIYA RIDE」オープン

日比谷公園地下の日比谷駐車場内に、自転車通勤者向け駐輪場「HIBIYA RIDE」を開業しました。



#### ■休憩施設のリニューアル

地域の特色を活かして、お客さまの「旅のドラマ」を演出する「ドラマチックエリア」を3箇所オープンしました。



東北道 那須高原SA④



館山道 市原SA④



東北道 菅生PA⑤

# 2012年度の営業概要（通行台数）



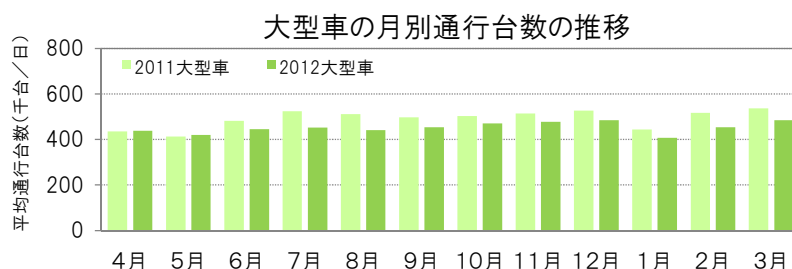
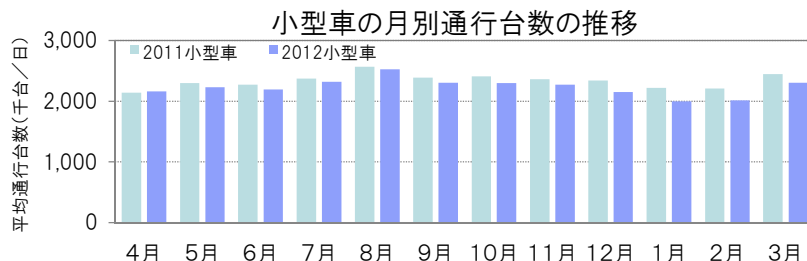
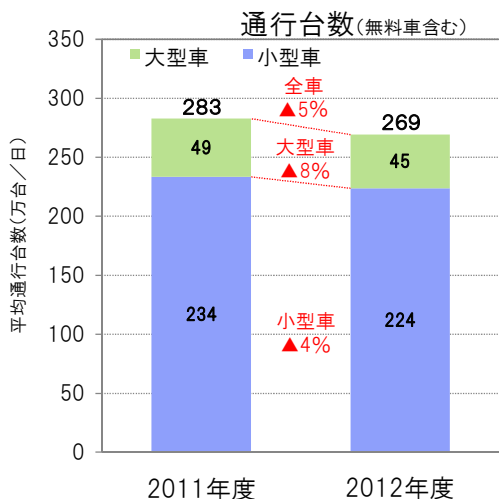
## (1) 通行台数(前年度比)

2012年度は、料金割引・東北地方無料措置の縮小(※)により、震災からの復興による需要増はあったものの、交通量は約269万台/日と昨年に比べて5%減少しました。

車種別では、小型車が4%減少、大型車が8%減少しました。

(※)2011年6月19日まで無料化社会実験及び休日特別割引(地方部上限1000円)を実施。

2011年6月20日から実施した東北地方無料措置のうち、原発避難者に対する無料措置を除き2012年3月末で終了。

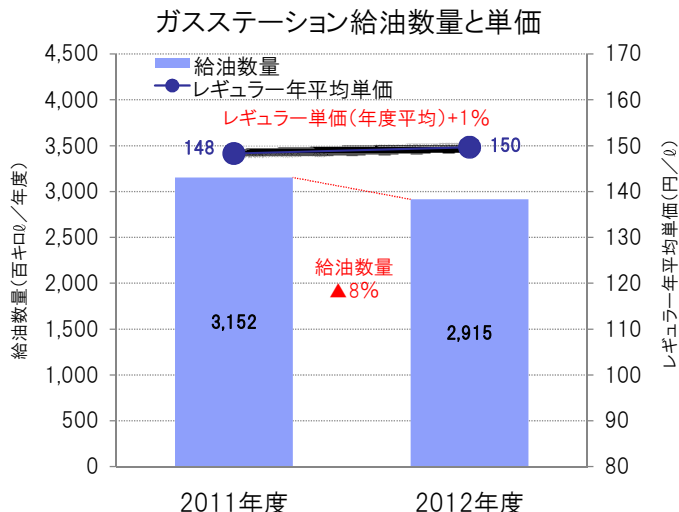
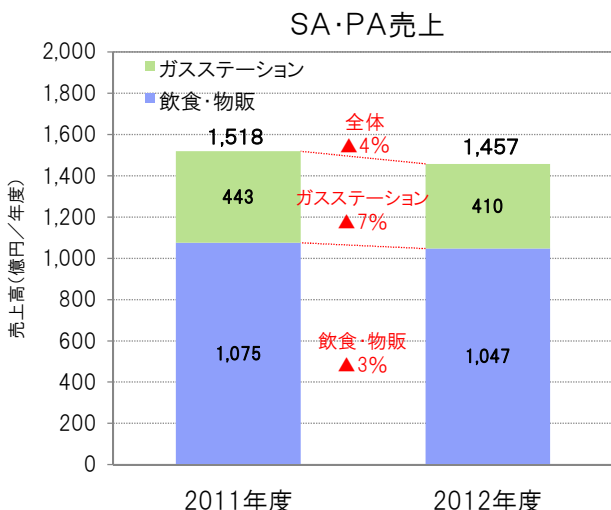


# 2012年度の営業概要（休憩施設店舗売上高）



## (2) 休憩施設店舗売上高(前年度比)

飲食・物販とガステーションを含めた全体の店舗売上高は、4%減の約1,457億円となりました。飲食・物販の店舗売上高は、交通量の減少に伴い、3%の減となりました。一方、ガステーションの店舗売上高は、被災地へ向かう車両への給油が多かった昨年からの反動により7%の減となりました。



## ■ 2013年度計画(連結損益見通し)について

➤ 2013年度は、営業利益40億円、当期純利益25億円を見込んでいます。

	2013年度計画
営業収益	8,426億円
営業利益	40億円
経常利益	61億円
当期純利益	25億円

※2013年度計画は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。